

共同研究報告 イギリス近代の自由主義

——ロックからミルへ——

1 共同研究のテーマ

イギリス近代の自由主義 ——ロックからミルへ——

2 共同研究参加者

学内研究者：福吉勝男、森哲彦、別所良美、寺田元一

学外研究者：下川潔（中部大学教授）

3 研究内容

テーマはロックからミルへということで始めたが、実際は、ロックの自由主義についての検討に終始した。ただ、下川潔『ジョン・ロックの自由主義政治哲学』という、非常に優れた研究書をテキストに選ぶことで、ロックのテキストやロック思想の歴史的な脈に定位すると同時に、その自由主義の現代的意義と歴史的限界をクリアに認識することができ、本年度も大変有意義な共同研究を展開できた。

幸い、著者の下川氏が近在ということもあって、12月に下川氏を呼んで講演していただくという計画を立て（講演会は2002年12月14日に本学にて開催）、それに向けて、大著『ジョン・ロックの自由主義政治哲学』を徐々に学内共同研究者の間で読み進めるという形で、研究会を進めた。研究会は夏休み明けを中心に数回実施した。その過程で、これまで検討してきたミルやハイエクなどの自由主義との関係で、ロックの自由主義の特徴がどの辺にあるかを知ることができた。とりわけ、下川氏も着目するプロパティ概念が、その後の自由主義では失われてしまう、ロック特有の重要な概念であることが明らかになった。それは単なる財産権ではなく、人格と身体と財産をともに含む概念であり、プロパティの自由を主張することは、危害原則に立った消極的な自由のみならず、行為の自由、力の行使の自由といった社会権的内容を含む積極的自由概念であった。

学内の研究会での検討、論点整理を受けて、いよいよ12月14日に下川氏の講演会を開催した。講演会では、氏からロック正義論をめぐる新たな論点も提示され、それらを受けて、これまでの学内共同研究の成果を発揮した質疑が、延々2時間以上にわたって行われた。当日の参加者には経済学部の教員など本学部以外の方もいたが、10人弱の研究会では異例なほど活発な討論がなされた。しろうとの質問とも思われる質問にも、下川氏にはていねいに答えていただき、非常に充実した研究会であった。とりわけ、自由主義的方向から、正義や公共善をいかに扱うことができるか、ロックはその点でどこまで成功しており、どのような課題が残されているかなどが、プロ

パティ概念といった、ロック自由主義の基礎概念にも遡りつつ検討された。自由と正義や公共善の関係をめぐる問題は、現代の自由主義をめぐる議論でも焦眉の問題となっているところであり、そうした問題を考えるに当たって、ロックの著書など、古典が相変わらず有意義であることを、再認識することにもなった。

本研究会では、2000年度に現代自由主義の代表といえるハイエクの自由主義、2001年度に19世紀の代表的自由主義であるJ・S・ミルのそれ、昨年度は17、8世紀の古典的自由主義の代表であるロックの自由主義をそれぞれ検討してきた。これで、自由主義についての一応の哲学的思想史的検討を終えたので、次は、それらを受けて本研究会独自の自由主義あるいは自由主義批判の展開をする番である。そうした活動を、できれば来年辺りから本格的に始動させたいと、われわれは現在考慮しているところである。